

昨日は少し遅れての遠足でした。よく晴れた植物園は、先日の年長の子が出かけた時よりもみどりが濃くなっていて、力強さを増していました。雨の恵みを吸い込み、日の光を浴び、風に励まされ、ぐーんと豊かにみどりを輝かせているのでしょう。

むそうの子どもたちも そんな植物たちと同じように、2ヶ月を過ぎ間もなく6月を迎えようとしています。

・朝のお迎えのバスに赤バッチの男の子が乗り込んでくるや、「おはよう」と、元気な声！にこっと微笑むと、「おはよう！」と同じような笑顔の仲間の隣に一直線！  
素敵な友だちができたのですね。二人がここで出会い いっしょに過ぎてきた時間が凝縮して感じられたような気がしました。

・どうやらクラスの集まりが始まったようです。デッキにいる赤バッチさんに青バッチの女の子が近づいて、何やらささやいていたかと思うと、そっと手をつなぎ立ちあがる赤バッチを導くお姉さんの姿がありました。  
どちらも自然で二人からとても柔らかな空気が漂っていました。  
兄弟、姉妹の関係にはいろいろと厳しい面もありますが、むそうの姉妹にはこんなうれしい場面がたくさんあります。

・「おじさん あそぼう！」と誘ってくれていた新入の男の子が、昨日は「えんちようせんせい あのね…」と呼び方が変わっていました。  
小さな子どもたちは何も説明をしなくても、実にいろいろなことを知っていたり自分の世界にしていくのですね。  
言葉をどんどん吸収して、再生してみても「あれちょっとちがった」と微調整をしたりして…愛肉化していく力はほんとうにすごいと思います。  
未来の自分自身を形作ろうとする幼な子の内にある働きや力は、底知れないもので、大人とは比べものにならないすごい働きなのでしょう。  
その力を使って 身近な「人」から 子どもたちは世界・言葉を吸い込んでいくのですね。

「関係性のないところに『存在』はあり得ない」と語った哲学者がいます。  
時を歩むということは、誰かとの関係性を深めることなのかもしれません。  
そのご縁を通して 自分自身の存在を確かにし、他者や世界の生きいきさを受けとって行くのでしょう。

「だっこ！」と甘えてくる子がいます。最高の笑顔や言葉を投げかけてくる子がいます。

逆にだっこして欲しくても言えない子もいるし、大人から語りかけられたり働きかけられたりするのが、今はまだ苦手な子もいます。

時は一刻へ進んでいきます。子どもたちも（もちろん大人たちも）時と共に変化していきます。

ひとつひとつの「今」、それぞれにとって大切な関係性をゆっくり ゆっくり深め合いながら、うれしい6月を過ごすことができればいいなと思います。